

日本語表現の授業実践報告

——^{メタファー} 隠喩をテーマとして ——

玉 懸 元

1. はじめに

近年、大学の1・2年次教育等のコンテンツとして、日本語表現を取り扱う科目（端的に言えば日本語で「話す・聞く・書く・読む」力の向上を目指す科目）の重要性が高まっている。実際の科目名称は、大学により、あるいは話し言葉と書き言葉のどちらに重心を置くかなどにより異なっていて、文章表現・文章作成法・文章技法・国語表現・実践話術・実用文章・レトリック論など、いろいろなものがあるようだ。

そうした科目で使用するための大学生用教科書も今や豊富である。たとえば、半沢幹一・倉田静佳・深津謙一郎（2008）、橋本修・福嶋健伸・安部朋世（2008）、大島弥生・池田玲子・大場理恵子ほか（2014）など、工夫の凝らされたテキストが多数刊行されている。

報告者（玉懸）の勤務する学部学科でも「国語表現法」「実践話術」「実用文章」「レトリック論」といった科目を用意し、日本語表現の指導を行なっている。報告者は、実用文章とレトリック論の科目担当者である。本稿は、そのうちレトリック論の授業実践報告として記す。具体的には、次のことを取り上げて報告する。

シラバスの作成について

ガイダンスについて

授業（隠喩をテーマとした回）の実際について

翌週の授業準備について

中心になるのは、 の授業の実際である。本稿では、隠喩（メタファー）を

テーマとした回について、その実際を報告する。なお、この科目の開講期間、単位数、受講生数等は次の通りである。

開講期間、単位数等.....半期 15 コマ (週 1 コマ 90 分) 2 単位

受講生.....年度により異なるが 90～140 名程度。主に 2 年次学生。

2. シラバスの作成

2.1 授業概要

レトリックという用語には大きく二つの意味がある。

(1) レトリックの二面性

a. うまく話す方法、説得力ある話し方を意味する。

b. うつくしく表現する方法、魅力的な表現の仕方を意味する。

実は根底で通じ合うものにせよ、ひとまずはこのように区別される二つの意味をレトリックという用語はもっている。(1a) は「弁論術」との関係が深く、(1b) は「修辞法」との関係が深い。

レトリック論の授業を組み立てるに当たっては、したがって、どちらの面からレトリックを取り上げるかが問題であった。どちらがよいかは、カリキュラムの全体像によるだろう。たとえば、レポートや論文の書き方を主題として取り扱う科目が、必修科目などの必須性の高い科目として同セメスター内に行なわれるなら、レトリック論のほうは (1b) の側面からレトリックを取り上げるのがよさそうだ。

報告者は、主として (1b) の面からレトリックを取り上げ、その基礎的な手法を実践的に学ぶことを主目的とする授業を行うことにし、この科目の授業概要を次のごとくシラバスに記した。

(2) 授業の概要

見たまま感じたままに話す (書く) ことは、必ずしも最良の表現方法ではない。相手に効果的に訴えるためには、様々な手法が用いられる。

「効果的に訴える」ための手法全般を指して「レトリック」と言う。本講義では、レトリック研究の論点・事例¹⁾を見た後、レトリックの具体的な手法について、その基礎を実践的に学ぶ。

なお、以下では、特に断わらない限り「レトリック」とは(1b)の意味でのレトリックを指す。

2.2 授業計画

レトリックに関するテキストや参考書籍は、榛谷泰明(2002)、瀬戸賢一(2002、2005)、柳沢浩哉・香西秀信・中村敦雄(2004)、速水博司(2005)、菅野盾樹/編(2007)、野内良三(2007)、荻生待也(2008)、鍋島弘治朗(2011)、中村明(2013)、多門靖容(2014)など、入門的なものから本格的なものまで硬軟さまざまなものが刊行されている。報告者は、主に瀬戸賢一(2002)(以下「瀬戸書」)に学びながら授業計画を立てた。

瀬戸書は、平明でありながら密度のある文章で綴られ、基礎を学ぶに十分な手応えがある。用例の選もよい。また「意味のレトリック」「形のレトリック」「構成のレトリック」の順で整然と章立てがなされている点は、どのような手法をどのような順で取り上げていくのがよいか、その具体的な計画を考える際にありがたかった。

意味のレトリック・形のレトリックから手法を選び、取り上げる順番も瀬戸書にならい、次のような授業計画を立ててシラバスに記載した。

(3) レトリックの手法 1	隠喩
レトリックの手法 2	直喩
レトリックの手法 3	擬人法
レトリックの手法 4	共感覚法、くびき法
レトリックの手法 5	換喩、提喩
レトリックの手法 6	誇張法、緩徐法
レトリックの手法 7	曲言法、同語反復法、撞着法
レトリックの手法 8	婉曲法、逆言法、修辭疑問法
レトリックの手法 9	含意法、反復法
レトリックの手法 10	挿入法、省略法、黙説法
レトリックの手法 11	倒置法、対句法、声喩

第1回の授業がガイダンス、第2・3回がレトリック研究の事例紹介(注1参照)、第4~14回で(3)の授業を行い、最終回はまとめと学期末レポートの

作成に充てた。

3. ガイダンス

3.1 授業の概要を受講生に説明する

初回の授業では、ガイダンスを行ない、シラバスに基づいて授業の概要を受講生に説明した。

(2) 授業の概要（再掲）

(ア) 見たまま感じたままに話す（書く）ことは、必ずしも最良の表現方法ではない。 (イ) 相手に効果的に訴えるためには、様々な手法が用いられる。 (ウ) 「効果的に訴える」ための手法全般を指して「レトリック」と言う。 本講義では、レトリック研究の論点・事例を見た後、(エ) レトリックの具体的な手法について、その基礎を実践的に学ぶ。

具体的には、シラバスに記載した上記（2）の内容を口頭で説明しながら、下線部（ア）～（エ）のそれぞれについて、次のようなことを補足した。

以下、受講生に語りかけた内容を記す部分は、デス・マス体で記述する。また、その中の〔 〕内には、板書やプロジェクタの操作などの行動を記す。

下線部（ア）について

皆さんは、これまでに文章の書き方を習ったとき——つまり作文の授業でということになるでしょうか——「見たまま感じたままに書けばいいんだよ」などと教わったことがあるかもしれません。一見もっともらしい助言ですが、それはあまりいいアドバイスではありません。

たとえば話をしましょう。はじめてほんものの富士山を見物に出掛けたとします〔富士山の写真をスクリーンに映す〕。富士山を目の前にして、皆さんならどんな感想を漏らすでしょうか。

こんな感想が洩れるかもしれません「すごい……」と〔「(今まさに富士山を目の前にして)」「すごい……」と板書する〕。これは、たった一言のたいへんシンプルな感想です。けれども、私はこれを表現として拙劣だとは思いません。富士山を目の前にし、その荘厳な美しさに圧倒され、ただただ「すごい」と発

する以上に言葉が出ない様子、息をのむ表情がありありと伝わってきます。これは、見たまま感じたままの表現が魅力的な表現たり得ている例だと思います。なお、この「すごい……」はレトリックの手法で言うと黙説法という手法にあたります。この表現手法ものちのち授業の中で取り上げます。

さて、富士山を目の前にして「すごい……」とつぶやくことが魅力的な表現であるとして、一方、次のようになるとどうでしょうか。

富士山を見物して帰ってきました。後日、ある友人から「富士山を見てきたそうだね。どうだった？」と聞かれました。[「富士山を見てきたそうだね。どうだった？」と聞かれて」と板書する]。このとき、こんなふうに答えたとしたら、どうでしょう[「すごかった！」と板書する]。この「すごかった」は、さきほどの「すごい」という感想を後日そのままに述べ伝えただけです。しかし、富士山をまさしく目の前にしたときの感動がこの言い方で伝わるでしょうか。

【板書例】

(a) (今まさに富士山を目の前にして)「すごい……」

(b) (「富士山を見てきたそうだね。どうだった？」と聞かれて)「すごかった！」

この (b) の表現では、あの息をのむような感動は到底伝わらないでしょう。見たまま感じたままの表現では、必ずしもその思いが伝わらないということがこの例からわかります。

下線部 (イ) について

相手に効果的に訴えるためには、さまざまな表現の手法を学んで使えるようにしておくほうがよいでしょう。実際、文章の達人、言語表現の達人たちは、いろいろな表現の手法をそっと（ときには大々的に）織り込んで私たちに語りかけてきます。

そのことを具体的に見てみましょう。次に音読するのは、作家・朝井リョウさんの『桐島、部活やめるってよ』という小説の一節です。

返事も聞かずに、竜汰がぐ、と力を込めてペダルを踏んだ。ぐん、と体の芯からふらつくような不安定さに揺れながら、俺は尻の位置を整える。さらさらと視界を流れていく景色は秋の余韻と冬の予感を含んでいて、乾いた風が学ランの襟元へ入りこんでは俺の体を何度も撫でていく。(朝井リョウ『桐島、部活やめるってよ』集英社文庫より)

3～4行程度の短い文章ですがけれども、複数の表現手法が織り込まれています。たとえば、次の部分です。[「景色は秋の余韻と冬の予感を含んでいて」と板書する]心地よく耳に響く一節です。ここには、対句法という手法が使われています。しかも、こんな短い一節の中に質の異なる二つの対句法を使っています。

【板書例 - 1】

(c) 景色は秋の余韻と冬の予感を含んでいて

対句法というのは——詳しいことはのちのち授業の中で取り上げますがけれども——要するに表現の中にペアを盛り込むということです。この(c)には、「 $\times \times$ 」という言い方が2回出てきます(実はそのこと自体も対句法の行使なのですが、ここではそれには触れません)。その「 $\times \times$ 」の部分に「秋」と「冬」が置かれて、これがペアをなしています。対句法というのは、こういうふうにとまとまりの表現の中に何らかのペアを盛り込むことなのです。

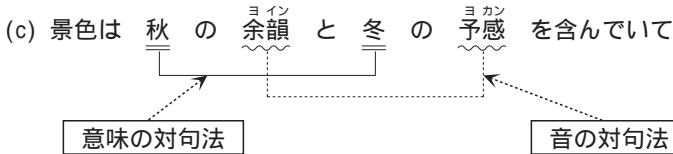
ところで「秋」と「冬」がペアであるというのは、どういう意味合いでペアなのでしょう。「鴨」と「コインロッカー」では普通ペアになりません。でも「秋」と「冬」がペアだと言えるのはなぜでしょうか。それは、どちらも季節名称の一つだからです。つまり、同一の意味分野に属することでこの両者はペアなのです。

実は、この(c)には、これとは質の異なるペアがもう一つ盛り込まれています。「 $\times \times$ 」の部分に置かれた「余韻」と「予感」です。これは、意味の上でのペアではありません。音の上でのペアです。[「ヨイン」「ヨカン」とフリガナを板書する]この両者は、音がよく似ています。よく似た音をもつ単語をここに配置することで、心地よいリズムが生まれています。ぜひ実際に口ずさ

んでみてください。

まとめると、朝井さんのこの一節には、こんなふうに異質な2つの対句法が使われていることになります。[直線・矢印等を以下のように板書する]

【板書例 - 2】



いかがでしょうか。なんとなく読んでいると見過ごしてしまうかもしれませんが、卓れた表現者は、こんな短い一節にも工夫を凝らしているのです。

下線部 (ウ) (エ) について

いま「黙説法」と「対句法」という表現手法が話題に出てきました。これらはレトリックの手法の一部です。相手に効果的に訴えるための手法全般を指して「レトリック」と言います。

いま「相手に効果的に訴えるための手法全般」と言いましたがけれども、これは、たいへん広義です。たとえば、声の大きさとか間の取り方とか、それも相手にうまく訴えかけるには大切な要素でしょう。その通りであって、そうしたもののレトリックの手法として論じることができます。レトリックという用語が表す範囲は、実は非常に広いのです。大きく分けて、次のような二つの意味があります [以下のように板書する]。

【板書例 】

(d) レトリックの二面性

1. うまく話す方法、説得力ある話し方を意味する。弁論術としてのレトリック。
2. うつくしく表現する方法、魅力的な表現の仕方を意味する。修辞法としてのレトリック。

この授業ではレトリックの手法を学んでいきますが、そのすべてを取り上げることはできません。主に取り上げるのは2.の面です。つまり、修辞法としてのレトリックを取り上げて、その基礎的な手法を実践的に学んでいくことにします。

3.2 授業計画を受講生に説明する

ガイダンスでは、授業概要に続いて授業計画を受講生に説明した。これはシラバスの記載内容を、(3)を中心として口頭で述べただけである。とくに補足説明はしていない。

4. 授業の実際

はじめに取り上げたレトリックの手法は、隠喩である。ここでは、その授業の実際を報告する。

授業は、次の(4)のような順序で進めた。

(4) 隠喩をテーマとする授業の構成

隠喩とは何か ― おおまかな説明

隠喩の実例を見る

隠喩とは何か ― より詳しい説明

隠喩を作ってみる ― 実践練習 (レポート作成)

隠喩と弁論術との関連

なお、手法のおおまかな説明に始まり、その手法の実践練習 (レポート作成) に至る授業の流れは、後の回で他の手法をテーマとするに際してもだいたい共通である。ただし、後の回では、実践練習の成果を教員から紹介する時間が授業冒頭に設けられることになる (5節で言及する)。

例文として次の [1] ~ [3] (例文そのものは後掲。ここでは出典のみ掲げる) を用意し、印刷して受講生に配布した。なお本稿では、例文番号に [] を使い、他の通し番号と区別する。

[1] 安野光雅 『わが谷は緑なりき』 より

[2] 伊坂幸太郎 『重力ピエロ』 より

[3] 野口悠紀雄『「超」文章法』より

以上のうち [1] は瀬戸書が挙げた例文、[2] [3] は報告者が採取した例文である。以下、上記 (4) のそれぞれについて、授業の実際を報告する。

隠喩とは何か ― おおまかな説明

今日からは、このレトリック論という科目のメインテーマ、修辞法としてのレトリックの実践練習に入ります。もっとも、弁論術と修辞法はまったく別個のものではありませんので、弁論術にかかわることに言及することもあります。

さて、今日の授業で取り上げるレトリックの手法は「隠喩」です。隠喩とはどんな表現手法か、はじめにおおまかな説明をしておきましょう。一口に言えば、隠喩とは、あるものを別のあるものに喩えて表わす表現手法です。その際、喩えているということを示すマークを使わないのが隠喩らしさです。そうしたマークがあるときは直喩という手法に分類されますが、それはまた後の授業で取り扱います。[以下のように板書する]

【板書例】

隠喩とは あるものを別のあるものに喩えて表わす表現手法。

喩えであることを示すマークがない。

隠喩の実例を見る

それでは、隠喩が用いられた文章の例を見てみましょう。[例文 [1] を音読する]

- [1] 芋の葉の露も、まるいたまだ。涙も、まるいたまだ。雨つぶも、まるいたまだ。ところが、その雨が凍って雪になると、もうまるくはない。ふわふわの綿のようになってしまう。

顕微鏡ではじめて、その雪を見た人はだれだろう。その人はどんなにおどろいただろうか。顕微鏡で見たのは、うつくしい花だった。それとも、すばらしい宝石だったか。しかし、みるみるうちに、その宝石は、とけて水になった。やはり、雪だったのだろうか。見まちがいではなかったか。それとも、これは魔法かもしれない。でなかったら、だれが雪を

そんなうつくしい花にしたのだろう。(安野光雅「ものの形 その1」
『わが谷は緑なりき』筑摩書房より)

安野光雅さんの「ものの形」という文章の一節を読みました。これは、瀬戸賢一さんも隠喩の説明のために引いている(瀬戸書 20~21 ページ)一節で、隠喩の価値を理解するにはもってこいの例文です。

この一節には、隠喩による表現がいくつも含まれています。まず、これが隠喩だと思う箇所を蛍光ペンなどでマークしてみてください。[以下のように板書し、数分の時間をとる]

【板書例】

隠喩が用いられている箇所を指摘せよ。

どんな隠喩の表現が見つかりましたか。

次のものは見逃せません。「うつくしい花」と「すばらしい宝石」です。どちらも雪の結晶のことを表した言葉です。

皆さんは、雪の結晶を実際に見たことがありますか。イメージをつかむために、その写真を見ておきましょう。[雪の結晶の写真(図1)をスクリーンに映す] この世にこれほど精緻で美しいものがほんとうに存在するのか、とため息が出そうな姿をしています。

さて、もしも雪の結晶が次のような形をしていたらどうでしょう。[「 」と板書する] こんな形だったら、こんなものが存在するのかなどと驚いたりはないでしょう。また、その形を言葉で表現するなら「まるかった」と言えばよいことになります。言葉で表現するのは難しくありません。「まるい」という既製の言葉を使ってその形をそのまま表現できるからです。

しかし、実際の雪の結晶は、図1の通りそんな単純な姿をしていません。それでは、どんな言葉をあてがってこの姿を言い表し



図1 雪の結晶

たらいいいのでしょうか。

そう、このような雪の結晶の姿をそのまま言い表わす言葉はないのです。では、どう表現するか。そこで駆使されるのが「隠喩」です。【板書例】を指し示す] つまり、雪の結晶を何か別のあるものに喩えて表わすのです。安野さんは、雪の結晶の姿を「うつくしい花」「すばらしい宝石」に喩えて表現したわけです。

隠喩とは何か ― より詳しい説明

ここで、隠喩についてもう少し詳しい説明を加えておきましょう。

安野さんは雪の結晶について、花だ、宝石だ、と表現しました。けれども、理屈を言えば、雪の結晶と花は別物です。もちろん雪の結晶と宝石も別物です。つまり、ことの現実としては「雪の結晶 = 花」とか「雪の結晶 = 宝石」などという等式は成り立ちません。[以下のように板書する]

【板書例 - 1】

雪の結晶 花 雪の結晶 宝石

しかし、隠喩とは、そんな別物どうしをキュッと結びつけてしまう表現手法です。現実には成り立たない等式がレトリックとしては成り立つのです。[以下のように板書する]

【板書例 - 2】

雪の結晶 = 花 雪の結晶 = 宝石 レトリックの世界

雪の結晶 花 雪の結晶 宝石 現 実 の 世 界

いま板書したように、現実の世界では成立しないけれどもレトリックの世界では成立する、と言い直してもいいでしょう。瀬戸賢一さんは、このことを「でない」と「である」が同居していると言い表わしています（瀬戸書 21 ページ）。言い得て妙だと思います。

ここで、作家の伊坂幸太郎さんの小説『重力ピエロ』の一節を読んでみましょう。[例文 [2] を音読する]

[2] 人の一生は自転車レースと同じだと言い切る上司もいれば、人生をレストランでの食事に喩える同僚もいた。つまり、人生は必死にペダルを漕いで走る競走で、勝者と敗者が存在するのだという考え方と、フルコース料理のように楽しむもので、隣のテーブルの客と競う必要はなにもないという構え方だ。私は、どちらが正しいのかは分からなかったが、その時は現実に自転車を漕いでいた。駅へ向かっていた。(伊坂幸太郎『重力ピエロ』新潮文庫より)

いかがでしょうか。伊坂さんは「人生」を「自転車レース」「レストランでの食事」に喩えてみせています。なるほどと唸らせられます。さらにこの文章の気の利いたところは、「……構え方だ」という箇所までは「レトリックの世界」で話を進めておきながら、そこから「その時は現実に自転車を漕いでいた」と突然「現実の世界」に世界をひっくり返してみせることです。レトリックの名手としての遊び心、余裕が感じられます。

伊坂さんの作品では、隠喩を含めてさまざまなレトリックが楽しめます。すでに作品を読んだことがある方も、そのようなことを意識して読み直してみると新しい発見があることでしょう。

たとえば、同じ作品の中で、大企業のビルが放火されてごく小さなぼや騒ぎになったとき、伊坂さんはそれを「巨人の足の小指に煙草^{たばこ}の灰を擦りつけた程度のもの」だったと描写します（これは直喩と言うほうがいいかもしれませんが本質は隠喩と同様です）。「巨人」（数十メートルくらい）と「煙草」（10センチメートルくらい）とのコントラストが実に鮮やかに効いたレトリックです。

伊坂さんのレトリックを見ていると、絵画のイメージと重なることがあります。この例の場合ですと、画家フランシスコ・デ・ゴヤの作品《巨人》(図2)が思い浮かびます。もしかしたら伊坂さん自身絵画がお好きで、ゴヤの《巨人》を脳裏に浮かべて紡ぎ出したレトリックなのかもしれない、などと想像しながら読むといっそう楽しくなります²。

隠喩を作ってみる ― 実践練習（レポート作成）

さて、伊坂さんは人生を「自転車レース」や「レストランでの食事」に喩えました。皆さんなら人生をどう喩えますか。ここで、実践練習として次の課題に取り組んでみましょう。これは今日のレポートとして出席票³に記入し、授業終了時に提出してください。[以下のように板書し、15分程度の時間をとる]



図2 フランシスコ・デ・ゴヤ《巨人》

【板書例】

次の文章の空欄を自由に埋めよ。

人生とは_____である。なぜなら_____だからだ。

本日のレポートとして出席票に記入すること。

隠喩と弁論術との関連

皆さんの作品は後で見せてもらって、次回の授業のはじめにその幾つかを紹介したり、コメントを付けたりすることにします。

今日の授業の最後に、隠喩という表現手法が弁論術としてのレトリックと関連するものなのだということをお話しておきます。例文 [3] を読んでみましょう。[音読する]

[3] 経済変動には、経済構造パラメータの長期的・傾向的な変化に起因するものと、変数の短期的・循環的な変化に起因するものがある。前者に対応するのが構造改革であり、後者に対応するのが景気対策だ。（野口悠紀雄『「超」文章法』より）

いかがでしょうか。景気対策と構造改革との違いを説明した文章ですが、一読して理解できた人はあまりいないのではないのでしょうか。これは決して分かりやすい文章とは言えません。野口さん自身「説明は正確だが、ピンとこない」例文としてこれを挙げています（同書 118 ページ）。けれども、隠喩を使って

やると一気に分かりやすくなります。[以下のように板書する]

【板書例】

景気対策は熱冷ましでしかない。これに対して構造改革は手術である。

これは、野口さんの同書（117 ページ）にあった例文に少し手を入れたものです。景気対策と構造改革をそれぞれ「熱冷まし」と「手術」に喩えたわけです。さきほどの [3] と比較すると、景気対策と構造改革の違いがピンッとくる文章になったのではないのでしょうか。

このように隠喩は、いわゆる説明的文章においても強力な武器になるのです。ここまでくれば、隠喩という表現手法が弁論術としてのレトリックと関連するものであるということが理解していただけたと思います。

隠喩は——これはよくある誤解なのですが——決して文章のおしゃれに終始するものではありません。その本質は、人間の直感に訴える表現であることです。直感に訴えるがゆえに、その訴求力はとても強い。野口さんは「この技術はドーピングのようなものである」とまで述べています（同書 117 ページ）。

それでは、今日の授業はここまでにします。出席票を提出して解散してください。

5. 翌週の授業への準備

提出を受けた出席票（兼レポート用紙）から 20～30 作品を選出し、それを受講生全員に紹介するため、パワーポイント資料⁴（以下 PPT 資料）を作成することが翌週への重要な準備作業である。ここには、その PPT 資料作成の手順等を書き留めておく。

当然、すべての出席票に目を通すところから準備がはじまる。受講生数が多いほど、楽な作業ではない。けれども、良作に出会えたときは科目担当者冥利に尽きるところでもある。

たとえば「人生とは迷路である。なぜなら我々はいつも正解の分かり得ない道を進むほかないからだ」といった正統派の作品があり、また同じく迷路に喩

えるにしても「人生とは迷路である。なぜなら、そこには道をさがし迷う自由があるからだ」と撞着法の香りを漂わせた一品がある。「さがし迷う」と「自由」との衝突にはっとさせられる。

「人生とはセーブ不可能のゲームである。なぜなら、どうしたってやり直しはきかないのだから」と現代の若者らしい着想の作品もあれば、「人生とは鉛筆だ。なぜなら、芯の太い人も柔らかい人も途中で折れる人も最後まで全うする人もいるからだ」と若くして洞察の跡を感じさせる作品もある。「途中で折れる」の意味するところを思うと胸がつまる。

「人生とは抜けゆく髪である。なぜならもう取り戻せないのだから」とどこかコミカルでありながら哀しみを帯びた作品があるかと思えば、「人生とはバイキングである。なぜなら自分の好きなことを好きなだけ選ぶことができるからだ」と底抜けにオプティミスティックで、周囲を幸せな気持ちにしてくれそうな逸品にも出会う。こんな隠喩を書くことができるのは、必ずしも喜悦に溢れてはいない人生から喜びをすくい取る才能をもった人であるにちがいない(以上の作品例は2014年度受講生による)。

さて、このようにして受講生の出席票すべてに目を通した後、20~30作品を選出する。

時折、オリジナルではない一節(文学作品の引用など)をレポートしてくる受講生もいる。たとえば「人生はただ歩き回る影法師、哀れな役者だ。舞台の上で見栄をきったり思い悩んでみせたりして、出番が終わればどこかへ消えてしまうのだ(シェイクスピア『マクベス』より)」など。出典が明記してあれば、文学作品の紹介を兼ねてそうしたものをピックアップすることもある。『マクベス』のように英語を原文とする文学作品からの引用であれば、原文(Life's but a walking shadow, a poor player. That struts and frets his hour upon the stage and then is heard no more.)を添えてPPT資料を作成しておき、紹介の際に英語圏出身の受講生に朗読してもらうと授業のよいアクセントになる。

選出が済んだら、それらの出席票をスキャナーで読み込む。複数枚を一気にスキャンできるドキュメントスキャナーがあると便利だ。報告者はキヤノンDR-C125を使用している。読み込んだデータはjpeg画像として特定のフォル

ダに保存する。

続いて、その jpeg 画像に対するトリミング作業等を行なう。これは、出席票から作品部分だけを切り抜いて、必要に応じて補正をかける作業だ。画像処理ソフトウェアを使用するが、切り抜きと簡単な補正（薄い鉛筆書きの文字を濃

く見やすくするなど）を行なうだけなので、たいていどんなソフトウェアでもかまわない。報告者は MOOII TECH 提供のフリーウェア「PhotoScape」を使用している。フリーであるものの、機能は十分だ。

その作業の済んだ jpeg 画像を、紹介する順番を考えながら PPT 資料に流し込む。それが一通り済めば、選出作品を受講生全員に紹介するための PPT 資料が完成する。その 1 スライド（サンプル）を図 3 として掲げておく。

以上の準備作業には 4～5 時間程度を要する（受講生が 140 名程度の場合）。少なくない時間を要する作業であるものの、毎時間の実践練習とそのレポート提出に対する受講生のモチベーションを維持、喚起するためには、こうした資料を用意して力作を紹介し、レポートへのフィードバックとすることが有効である。

なお、授業冒頭にこのような作品紹介を行なうのであるが、それぞれの作品に簡単なコメントを付けながら 20～30 例を紹介するのに要する時間は 15～20 分程度である。簡単なコメントとは、たとえば上述の、

「さがし迷う」と「自由」との衝突にはっとさせられる。

「途中で折れる」の意味するところを思うと胸がつまる。

底抜けにオプティミスティックで周囲を幸せな気持ちにしてくれそうな逸品だ。

などだ。すべての出席票に目を通す際に、このようなメモをとりながら読み進めることにしている。

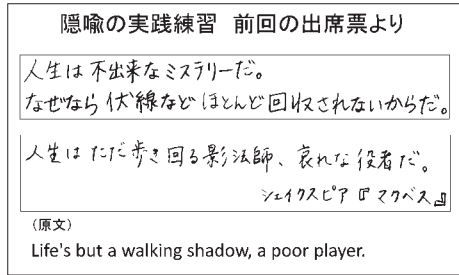


図 3 作品紹介用 PPT 資料（サンプル）

6. おわりに

以上、本稿では、報告者の担当科目レトリック論の授業実践報告を行なった。具体的には、はじめに、シラバス作成の際にどのようにして授業概要を定め、授業計画を立てたかを略述した（2節）。その後、初回の授業におけるガイダンスの進め方について述べ（3節）、続いては、隠喩をテーマとした回を取り上げてその授業の実際を報告した（4節）。5節では、翌週の授業への準備作業にも言及した。

本稿が授業実践報告のオーソドックスなスタイルを備えていないことは承知している。かつて、この科目をはじめて担当することになったとき（2007年度）「もしもこんな授業実践報告があったら助かるのに」と呻いていたことを思い起こし、そのこんな授業実践報告の一部を綴ったつもりである。

最後に、報告者が授業準備に際してとくに利用してきた辞典2点を挙げておく。瀬戸書とこれらの辞典なしでは、この授業を組み立て、実践することはできなかった。感謝申し上げます。

野内良三（1998）『レトリック辞典』国書刊行会
各種レトリック手法の説明が必要十分になされている。

野内良三（2005）『日本語修辞辞典』国書刊行会
各種レトリック手法の用例が充実している。

注

- *1 ここに記したように、レトリックの手法を実践的に学ぶ前に、レトリック研究の事例（たとえば中村敦雄 2004 など）を紹介する回を設けているのだが、本稿では割愛する。
- *2 本稿では挙げきれないが、授業中には、関連する小説、映画、絵画、音楽、漫画、写真などの紹介に努めている。そうしたさまざまな表現に触れることは、言語表現の腕（レトリックの手法）を磨くにも有用だと考えるからである。フランシスコ・デ・ゴヤ《巨人》については、そのようなことの一例としてここに述べた。
- *3 出席票には、A4用紙を使用している。したがって、受講生が記入するスペースがたっぶりある。出席票というよりも出席票兼レポート用紙というほうが実情に合う。

- *4 Microsoft 社製のソフトウェア「パワーポイント」を使用して作成するプレゼンテーション資料。

用例出典

朝井リョウ『桐島、部活やめるってよ』集英社文庫、2012 年
 安野光雅『わが谷は緑なりき』筑摩書房、1995 年
 伊坂幸太郎『重力ピエロ』新潮文庫、2006 年
 野口悠紀雄『「超」文章法』中公新書、2002 年

引用文献

大島弥生・池田玲子・大場理恵子ほか（2014）『ピアで学ぶ大学生の日本語表現』第 2 版、ひつじ書房
 荻生待也（2008）『文彩百遊——楽しむ日本語レトリック——』遊子館
 菅野盾樹ノ編（2007）『レトリック論を学ぶ人のために』世界思想社
 瀬戸賢一（2002）『日本語のレトリック——文章表現の技法——』岩波書店
 瀬戸賢一（2005）『よくわかる比喩——ことばの根っこをもっと知ろう——』研究社
 多門靖容（2014）『比喩論』風間書房
 中村明（2013）『比喩表現の世界——日本語のイメージを読む——』筑摩書房
 中村敦雄（2004）「グルメ記事はいかにして読者を魅了しているか？」柳沢浩哉・香西秀信・中村敦雄『レトリック探究法』朝倉書店
 鍋島弘治朗（2011）『日本語のメタファー』くろしお出版
 野内良三（2007）『レトリックのすすめ』大修館書店
 野口悠紀雄（2002）『「超」文章法』中公新書
 橋本修・福嶋健伸・安部朋世（2008）『大学生のための日本語表現トレーニング スキルアップ編』三省堂
 速水博司（2005）『大学生のためのレトリック入門——説得力と表現力を高める文章作成の技法——』蒼丘書林
 榛谷泰明（2002）『比喩の日本語』白水社
 半沢幹一・倉田静佳・深津謙一郎（2008）『ことば遊びの日本語表現』おうふう
 柳沢浩哉・香西秀信・中村敦雄（2004）『レトリック探究法』朝倉書店

（文学部准教授）